

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372701039
法人名	医療法人社団問端会
事業所名	グループホーム といはた
訪問調査日	平成 19 年 12 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年1月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372701039		
法人名	医療法人社団問端会		
事業所名	グループホーム といはた		
所在地 (電話番号)	阿蘇市内牧117 (電話) 0967-32-5115		
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本市水前寺6丁目41番5号		
訪問調査日	平成19年12月26日		

## 【情報提供票より】(平成19年12月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18人	常勤	12人, 非常勤 6人, 常勤換算 16.1人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造・一部鉄筋コンクリート 造り	
	1階建て	1階

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	450/日 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	200 円
	夕食	320 円	おやつ	120 円
	または1日当たり		820 円	

### (4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	78歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	問端内科、市原歯科クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホテルや商店が建ち並ぶ街中にあるホーム。玄関前はゆとりある空間が広がり、その一角に設置された天然温泉の「足湯」。小学生や観光客が楽しんでいる光景も見られる。事務室を中心とした2つのホームの交流は利用者職員共に頻繁で、一つの大家族としての暮らしが見られ、職員間の仲間意識も強く、働きやすい環境となっている。両棟とも天井が高くゆったりスペースで、のんびりゆっくりの時間が流れている。また、隣接した内科医院が母体法人であるため、特に夜間医療に大きな安心感が得られている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で、ベランダや両棟のユニットバスが物置のようになっているとの指摘を受け、ベランダを片付けてユニット型の物置が設置されていた。それでも収納しきれない物がユニットバスの中に見られ、さらなる改善に期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>両棟の管理者を中心に担当者、職員が一ヶ月をかけて取り組んできた。職員からも多くの気づきが出され、自己評価が自分の仕事を見直すきっかけ作りになっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はまだ1回しか開催されていないが、幅広い人材の参加を得て、いくつかの提案や協力依頼がなされた。それを、実現に向けて実践しているという意欲が認識できた意義は大きい。行政も関連各課が協力体制を示しており、今後の運営推進会議の役割に期待が持たれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問が多く、担当者を中心に利用者の状況がその都度伝えられ、信頼関係が出来ている。そのため、意見や希望が率直に出され、職員も希望に沿うよう笑顔での穏やかな対応が見られる。苦情や不安への訴えは少なく、ホームへの信頼や感謝の気持ちが職員のやる気に繋がっている事が確認できた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>街中にあるホームという地の利を活かした地域間交流は商店街での買い物、理・美容院の利用、散歩や「足湯」での触れ合いの場で活かされている。地域の保育園長が運営推進委員としてホームに協力を約束。今後益々交流の場が持たれることと思われる。また、中学生の職場体験では中学生自らが「といはた新聞」を作成・持参するなど、生徒たちの学びの場としても貢献している。</p>

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「穏やかでやすらぎのある暮らし」「思いや意思が尊重される暮らし」「健康に対して不安がなく事故のない暮らし」の三項目が定められ、日常のケアに活かされているが、地域密着型サービスの役割としての理念までには至っていない。	○	グループホームの理念を引き継いだものとなっているが、地域密着型としての理念を付加されることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者は特に基本的な言葉づかいとあいさつを重要視している。管理者と共に全職員が互いの支援のあり方について話し合い利用者の個性に応じた適切な支援につなげており、新入職員への教育も実践の中でその都度管理者の気づきや思いを伝える努力が見られた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホテルや商店が並ぶ街中にあるホームなので外出の折には積極的に挨拶をし、商店で買い物や配達を頼むなど、馴染みの関係が出来ている。ホーム前庭の天然温泉「足湯」には小学生や観光客も立ち寄り開放的。ホーム独自で空き缶拾いや清掃活動にも取り組んでいる。	○	以前は施設内の「多目的ホール」が地域老人会や婦人会・趣味のサークル活動の「集まりの場」として活用されていたが、現在はあまり活用されておらず、再開されることで、さらなる交流が持たれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は「外部評価」を重要視し、前回評価の改善点については事務長と話し合い、即実行できることと、時間をかけて取り組んでいかなければならない課題について検討する等、積極的な姿勢がみられた。自己評価は一ヶ月をかけて両棟の管理者、責任者が実践の中で取り組み、業務の再確認に役立てられていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議規則」を作り、第一回目を開催。利用者、家族、民生委員、行政職員、近隣住民、保育園長の参加で保育園との交流、区の清掃、参加等が話し合われた。ホームからは行事参加や災害時の協力依頼がなされ、確実に「地域密着型」としてのホームの存在が認知されつつある。次回テーマは「ホーム内での事例を提示」意見交換を行う予定。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員それぞれに持つ人脈やネットワークを活用して他方面との連携体制が取れている。また、担当者は必要書類等を郵送ではなく直接届けて、相互の絆を深める努力も行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回の会計報告時に利用者の近況、写真、職員の異動等を郵送しており、同時に個別記録としてファイルされている。家族の面会は多く、利用者の日常を話し、その状況に応じて家族の要望を聞く体制が出来ている。遠方で来訪が少ない家族には、随時電話で連絡を取り、関係が途切れない配慮がみられた。	○	次年度の目標として定期的に新聞発行の予定。その中に職員の顔写真やプロフィール等も盛り込まれる、異動や退職者の情報も確実に伝わり、家族との交流促進につながる事が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は多く、信頼関係が出来ており、居室の雰囲気作りや髪型等にも率直な意見や感想が出され、話し合いながら利用者、家族双方の満足が得られている。意見の出にくい家族に対しては「して欲しい事はありますか」と仕向け意見を出しやすくする働きかけもある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	両棟で利用者、職員共に、普段から一つの家族のような交流があり、異動による大きな影響はみられないが「はじめから」という気持ちで職員同士話し合い、利用者の個々の状態を知る努力が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は多くの研修参加を推進しており、研修後は定例会で報告。最近では職員の発言や質問も多い。外部研修の内容によって合同、もしくは各棟で昼休みや夜間に時間を作り、互いの自己研鑽に努める等、意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム連絡会阿蘇支部」に8施設で交流。「運営推進会議」「家族会の在り方」「職員のストレス」等、テーマ毎に意見や情報交換の場として活かされている。	○	他グループホームへの見学や相互研修会等で、自ホーム以外のケアの在り方や経験を聞くことも、サービスの質の向上につながるのではないかとと思われる。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の家庭訪問で現状を知り、家族も一緒に通ってもらって徐々に慣れるよう配慮する等、利用者ごとの生活歴や個性を見極めた対応が行われている。また、行政からの情報、他施設利用からの移設については現場訪問を行ない聞き取りをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎朝、職員と共に身体を動かすトレーニングや食器洗い・配膳・おやつ作り等、出来る事は任せてやってもらっている。特に食事の時間を大切に、その日の食材・味付け・盛り付け等を話題とし、職員も一緒になごやかに語り合う場は、家族として共に過ごしている様子として実感できた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護ではなく、生活を支えるケアを目指して「出来ること」「出来ないこと」を記帳するノートを作成。担当者が希望や思いを責任を持って記録している。食事の希望も多く、買い物、理・美容、お見舞い、自宅近くまで行きたい等、個別希望へも対応がみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規利用者については三週間程、状況を観察し、管理者と担当でプランを立て、モニタリングして他の職員に伝える仕組みがある。また、利用者にスタッフの担当制がとられ、希望や能力に応じた実践的な介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは初回3ヶ月。その後は定期的に6ヶ月毎の見直しとなっているが、発熱はないか、足が弱ってきているので、転倒の危険はないか等、職員の気づきを基にその都度計画の見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者がホームの中だけでなく様々な場所で楽しみながら生活出来るよう、本人の希望に応じて個別の外出支援が行われている。近くの身体障害者施設の催しでは、バザー券を使った買い物等を体験し、誕生日には職員と1対1の夕食の楽しみも作られている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が隣接する内科医院であるため、定期受診や往診など医療面での安心が得られている。内科以外の受診については家族、もしくは職員の付添受診となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの介護に関する同意書」を取り交わすにあたり、状況、注意事項、家族の思い、職員の不安等を十分に話し合い家族の了承を得ている。看取りはぎりぎりまで様子を見て特に夜間の場合、母体である内科医院の看護師と勤務交替をし、職員の不安軽減、家族の安心につなげる仕組みがある。	○	現在、終末期を迎えつつある利用者について、医師、家族と話し合いの上、入院ではなくホームで見守りを実施中。居室ではなくホールに布団を敷いて全職員で24時間、家族としての支援が続いている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	合言葉は「美しい日本語」。利用者とのやり取りの中でうまくいかないことにぶつかった時、職員同士この言葉かけを行うことで、丁寧な声かけや対応が来ている。状況に応じて方言での会話もあるが呼びかけは「さん」付けで人生の先輩としての尊敬がある。排泄記録は事務室のカウンターに置かれ、プライバシーの保護に配慮されている。	○	トイレのドアがカーテンのみで「現状では支障はない」との事であったが、家族や来訪者の視点を考えると、プライバシー保護の観点から再度検討されることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールはあるが、我儘と本当の希望を見極め、状況に応じた対応が行われている。どの椅子に座るか、椅子の配置換えや座布団を置く場所を変える等、日常の些細なことへの工夫がみられた。昼夜逆転については体操・外出等、昼間の活動を多くし、時には軽い誘眠剤を利用して生活のパターンがくずれないようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を1日の大切な活動と捉え、入居時に本人及び家族から好みを聞いている。職員がケアに専念できるよう調理等専門職員を配置。その味付け、盛り付け、メニューは職員・利用者双方に好評となっている。利用者は配膳、片付け、おやつ作り等で台所仕事に参加。利用者、職員が同じテーブルでの食事風景は家族としてのまとまりがみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬場は週2回、夏は週3回と入浴日が決められており、利用者の希望に沿った自由な入浴とは言い難いが、天然温泉の大浴場で2～3人の同時入浴となっており、職員も2～3人付き添う現状がある。浴場までは手すり付きの長い廊下があり、残存能力が活かせるよう浴場まで、手すりを使って歩いて行くリハビリも兼ねている。冬場の浴場と廊下は寒いので、あらかじめ暖房しておく配慮も見られた。季節の行事に合わせてしょうぶ湯、ゆず湯、かぼちゃ湯の楽しみもある。	○	深い浴槽をまたぎ越す利用者への介助は職員の身体的負担も大きいと思われる。介護器具導入等の検討が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性利用者には日常的にマニキュア、化粧品、スカーフ等のおしゃれ支援によって、職員の服装まで利用者の気づきがあり、会話が弾んでいる。今年初めての試みとして来年の干支、「子」の芋版を押した年賀状作りが行われていた。毎朝の体操は職員の明るい声かけが利用者のやる気を起こさせ、草取り、食器洗いが得意な利用者には任せて、感謝しながらの対応となっていた。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「自分の家からちょっと外出」という気分を味わってもらうため、散歩・買い物等に誘い、気分転換を図っている。また、職員は地域の情報収集に努め、演劇やコンサート等に出かける機会を積極的に作っていた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を第一に考え、家族了解の下、玄関の施錠は行っているが、外出希望には即対応。また、来訪者に対しては呼び鈴で職員が玄関まで走り出て、その場で互いのコミュニケーションが取れている。	○	ホームの前が車道であるという立地条件と、以前、外出願望が頻回の利用者があり、やむをえず鍵かけを導いた。しかし、現在は利用者の平均年齢が高く、個人での自由な外出をする利用者は少ない。習慣的になっている鍵かけを中止して鍵をかけないケアの実践に移行されることを期待したい。
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災管理者が防災計画を作り、年1回消防署の指導の下、避難訓練を実施。結果、避難経路、誘導場所等の課題が出てマニュアル作成へと繋がっている。運営推進会議で地域消防団への協力依頼をしている。	○	消防訓練の際、近隣の協力は不可欠だとの認識の下、協力依頼をしたところ快諾を得ている。今後の地域連携の防災対策に期待がもたれる。



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排尿回数、顔のむくみ等で状態の変化を察知し水分摂取の増減に気配りしている。水または牛乳を勧める等、臨機応変な対応がとられている。また、台所のカウンターには常時湯ざましが置かれ、利用者は自由に飲めるよう配慮している。栄養摂取については、日頃の食事時の様子で全職員が摂取量の過不足を把握している。状態に応じて刻みやとろみをつける等の工夫もある		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両棟とも広々としたリビングがあり、ベランダを配した窓際にソファ、テーブル、テレビを設置。ソファの高さは低めで座りやすく背もたれ用のクッションも色や形を多様にそろえて好みのものが選べる配慮がある。ワンフロアに台所があり、調理の音が聞こえ、にこいの配慮がある等、五感への刺激も満たされている。	○	玄関からの入り口にスロープを設置せず、段の昇降をリハビリにも使っているが、ニーズに応じて簡易スロープを用い、利用者の利便性を図るなど、普通の生活の中に介護予防の視線を取り入れた工夫も見られた。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	やや低めのおしゃれな備え付けのベッドと木彫のクローゼット、出窓には花の小鉢を色とりどり並べた暖かな雰囲気のある部屋。家族や犬の写真が貼られ、利用者手作りのカレンダーや小物が下げられたり、テレビや簡易衣装掛けのある部屋等、どの部屋も利用者の個性がみられた。入り口ドアにも各々デザインの違いのプレートとのれんがかかっており、それぞれに心地よく過ごせる居室作りが見られた。	○	家族宿泊用の寝具も準備し、食事提供もできるので、可能な限り家族に宿泊してもらえよう働きかける等があり、その意欲に期待したい。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

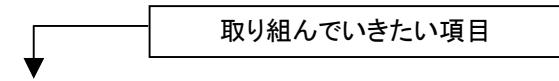
## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム といはた
(ユニット名)	はぎ
所在地 (県・市町村名)	熊本県 阿蘇市 内牧117
記入者名 (管理者)	下村 壽子
記入日	平成 19 年 12月 12日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を三項目、職員で話し合いの上決め、各棟に掲示し理念に沿った支援を行うように努めている。	○	地域の人々の中で入居者の方々の触れ合いができるような理念を作り支援に活かしていく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、各棟に掲示し、会議等では再確認をし合い意識付けを行っている。	○	新入職員への教育を継続する。理念のもとに仕事が出来たか会議の時に意見を出し合う。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の中で暮らす事の大切さを、運営推進会議をどうして会議に参加していただく地域の方々へ理解してもらえよう取り組んでいる。	○	家族会や行事のときなどに伝えていく事を続ける。運営推進会議でお願いする。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々へのあいさつを続けたり、商店から買い物をしたり配達して頂いたり努力している。又前庭にある足湯には通学帰りの小学生や観光に見えた方の利用も増えている。	○	隣近所の人にホームに来て頂けるような催しを増やしていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事や活動に参加し交流することに努めている。お祭り、清掃作業、文化祭などへの積極的な参加に心がけている。	○	ホーム前の空き地を活用し交流の場となるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月の会議での提案や、ご家族の希望を聞き、運営推進会議を通して取り組み等を説明している。	○	高齢者の方々の暮らしに役立てるような取り組みに向け取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして改善すべき点は努めて改善している。浴室内の床にすべり予防のマットの設置や手すりの増築、又更衣室の手すりの設置をしたりカーテンレールを設置してプライベートな空間が持てるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	11/13 1回目を開催し、委員の方々との話し合いをサービス向上へ活かしていく方針である。	○	2ヶ月毎の会議を有意義なものとしサービス向上へつなげていく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連携も密に取り合い、関係機関やグループホーム連絡会での意見交換などでサービスの向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要とする方が現在はいないが勉強はしていく。各研修会での講習を受けている職員が他の職員への伝達啓蒙を行う努力をする。	○	必要に応じて勉強していく。権利擁護事業についての勉強会に参加したり、社会福祉協会の担当者の方との連携をとり必要時にはサポートしていただく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで学ぶ機会を作っている。職員同士の声かけで防止に努める。外部の勉強会へ出席してホームでの会議で発表を行っている。参考資料をファイルしているいつでも確認できるようにしている。	○	ヒヤリハットの活用や異常の早期発見で虐待行為の防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を読みながら説明し十分な理解、納得をしてから署名して頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話を傾聴し、面会時ご家族等からの意見も伺い運営に活かしている。毎月の便りの中でも意見等が反映できるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回の便りで近況報告し、行事の写真を添え活動内容をお知らせしている。受診状況や薬についての説明、預かり金の収支報告を行っている。	○ 定期的に新聞作成をし、日頃の様子を伝えたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず家族の方々の声を聞くように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例会議、各勉強会を毎月行い意見や提案を聞く機会を設けている	○ 会議などで職員が意見を出しやすいように努め不満や苦情を十分早めに聞きだせるようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望に柔軟に対応出来るように、管理者各棟責任者で話し合いながら業務の調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じた移動等、話し合いながら行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者と一部の職員は研修等に出席している。研修後は全ての職員への伝達を定例会等で伝えている。	○ 職員全員が向上心をもつように取り組んでいく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や交流会へ参加し勉強会や意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	○ 職員全員が交流できる機会をつくる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	状況を見ながら話す機会を持つよう心がけている。希望休暇の取り入れや、職員間での交流会の時間も設けている。	○ 連休をとれるようなシフト組みを検討する。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定例会で医療、介護の連携、その時の問題点を話し合う。役決めをし、その責任を果たすように協力する。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には本人も含めて会って、本人の思いや、不安な事求めていることを十分聞けるような環境を作り、受け入れて頂ける様努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本当に困っている事を話せるような態度で傾聴し、受け止め解決する努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居まで時間がかかる時等は、現在の状況について相談に応じ必要な関係機関等へ相談、つなげるように対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでの生活を理解し、馴染めるように努力、工夫をしている。入居前に訪問して頂き馴れていただく。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事、おやつ作りやせんたくなど、本人の出来る事をして頂く中で、同じ時間を過ごし支え合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をきちんと伝えて、安心されるようなより良い関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に家族の方の協力を得ながら、より良い関係を築いている。状態・状況に応じて外出や外泊又、ホームでの行事への参加等を通じて支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、写真などで思い出して頂くように支援している。	○	馴染みの場所等への外出の機会が少ないので家族の協力を得ながら支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が気配りをし、協力できる作業や話し易いように席を配慮する等関わり合いを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	移られた先の施設へ面会に伺ったり、状況に応じてはお便りを出している。	○	必要時にはすぐ関わりが持てるように体制を作っておく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にもあげており、その人の思いや希望をかかわりの中で見つけ出し、面会の方からの情報をよく伺い把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込み時に生活暦を十分確認し、把握するようにしている。それまでの利用サービス機関等からの情報等を伺い把握に努めている。	○	ご家族からの情報や、利用サービス機関からの情報をなるべく多く収集できるよう努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員で関わり、生活のリズムを把握し変化に早めに気づき総合的に支援できるように努めている。	○	少しの変化や気になること、又問題が発生したら時間を作り話し合いをして全員で把握できるようにしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の方からは日頃のかかわりの中で話しをうかがうことができている。それに加え担当職員からの意見やアイデアを反映して計画を作成するようにしている。	○	意見交換やモニタリングの充実でプラン作成の勉強会を続けていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化が生じた場合はその状況に応じて、話し合いを通して計画を見直している。	○	担当者がモニタリングを行い、プランを活かせるように継続していく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項、申し送り事項を活用し、活かしている。職員間でも記録の上での問題点などをその都度話し合い共有し合っている。	○	記録に個人差が出ないようお互いの情報交換を行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関係機関との連携で、定期的受診ができ状況に応じては往診体制も充実している。家族の状況では他の医療機関への通院送迎体制も出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園・幼稚園・小中学校の方々との交流や、民生委員の方々との交流を持ち協力を得ながら支援していただいている。	○	運営推進会議を活用し意見を活かしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の理・美容院への外出や、馴染の美容室から訪問美容のサービスを受けている。又近隣の保育園からは運動会や夏祭りへの招待があり見物に出かけたり、他の施設への文化祭などへも出かけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員に会議等に参加して頂き情報交換を行う。	○	運営推進会議での情報交換の中で協働していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に相談して決めている。専門的治療に関しては主治医の紹介状で適切な医療を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	問題発生時や、緊急時・不安が生じた場合はあわてずに関係機関の医師や看護師に相談できる体制が出来ている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	病状の変化に伴う家族の気持ちの変化に早めに気づき支援していく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉かけで対応している。乱暴な方言がでる職員には注意をうながす。記録は他者の氏名はイニシャルを用いている。	○	家族のように親しみをこめたつもりとはいえ、人生の先輩なので十分注意をして、適切な言葉かけを行うように配慮する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思や行動の目的を把握し、適切な声かけやリクレーションを促している。着替えの際、本人の意向を汲み好みにあわせて、歩行練習の運動量や時間を本人と話して決めている。	○	家族の面会時に職員と本人の希望を聞くように努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活で最低必要なことは大まかに決めて行っているが、体調、思い、希望に沿って支援している。	○	昼夜逆転など生活のパターンがくずれないように注意する。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	以前から利用している店に行く。又はホームを訪問して頂きカットしている。1ヶ月～1ヶ月半を目安に計画し、本人の体調や希望にあわせている。化粧品の購入も手伝っている。	○	女性は特におしゃれに敏感なので、その意志を尊重し、服のコーディネートにも気配りする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの嫌いなものを周知し、摂取量や様子を記帳し対策検討に努めている。本人の能力にあわせては配膳や片づけ、野菜の皮剥き、おやつ作りをしている。誕生会は希望を取り入れたりしている。	○	食事は楽しみにしていることのひとつなので、食事に関わるリクレーションを多くしていきたい。好、不評メニューを検討し、今後の献立作りに役立てていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームでの喫煙は禁止している。お酒は家族会などの行事のときに検討し出している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、コントロールが困難な方は時間ごとに誘導し失禁を防ぐようにしている。下着又はオムツ内が清潔に保たれるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日をきめて温泉大浴場で行っている。その日以外で希望、必要があればユニットバスを利用している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冬は暖房や湯たんぽ、電気毛布、夏は冷房や窓を開け風を通すなど、その人に合わせて対応し安眠を確保している。	○	室内温度の確認を怠らぬよう、又、電気毛布の温度調整を行い安全にも配慮しながら実施する。寝付けないときなどにはゆっくりお話などを聞き安心していただくように支援していく。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の体操、家事のお手伝い、おやつ作り、清掃活動などその時々で能力に応じて楽しんでできる役割をして頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する買い物は可能な方は職員が同行している。所持金管理の出来る方は所持しているが、基本的にはご家族を通して職員で管理している。領収書と明細を月に1回家族に報告している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、受診や美容院などそれぞれに外出して気分転換を計っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々の風景を楽しむ為のドライブを兼ねて、神社参拝や名物店に立ち寄り、お饅頭やだんご等を食べる。演劇や音楽会など外出の機会を設けている。	○	早めに計画をし、より多くの家族の参加をお願いします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて職員が電話の取次ぎをし、コードレス電話で対応している。近況は写真を同封するなど月に一度は手紙を送って知らせている。字が書ける方には簡単な手紙を書いて頂き郵送している。	○	家族から電話をして頂いたり、手紙のやり取りができるように働きかける。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族会や誕生会への出席を事前に呼びかけている。普段の訪問の際はお茶やお菓子でもてなし、居室だけでなく、ダイニングやリビングでゆっくり歓談し、楽しんで頂ける様配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動や排泄パターンを把握し、誘導、声かけ、見守り等で身体拘束をしないケアを行っている。研修会へ参加し、勉強会を行い周知している。	○	新入職員に周知していく。全員が研修会などに参加して意識を高める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない取り組みは行っているが、事故に繋がりがかねない事例があるため鍵の必要性がある。ホーム前が一般道路であり車の行き来が多い状況である為。	○	施錠の必要がなくなるよう取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が持ち場を離れる時は他の職員に頼むなど、見守りが必ずつくようにしている。夜間は定期的に巡視して異常に早く気付くようにしている。	○	転倒・感染・誤薬・火災等マニュアル化して職員にも周知する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	使用時は職員の見守りで刃物、工具を使い、作業以外は事務所や台所で職員が保管管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒予防の体操、歩行練習、必要に応じてお粥、トロミ対応、誤薬を防ぐため複数の職員で確認し、服用の際は見守り確認している。防火管理者を決め火災訓練を行う。	○	防災訓練で全職員の意識を高める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的にはすぐに主治医へ連絡する。定期的ではないが必要時には医師に依頼し勉強会を開いている。	○	学びたいことを勉強会を通して職員全員が把握するようにし、体験・学習できる機会を多く持つようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が防災計画を作り、訓練を実施するようにしている。運営推進委員会で地域の方に協力をお願いした。	○	消防訓練の際近隣の方々にも参加して頂けるように連絡する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクに応じて起こる状況を、入居時や面会などの時に説明して希望や思いがかなえられるよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の異常や変化を早期に発見し、主治医に連絡、指示を受けている。その都度状況を家族に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の解説書をケース記録に保管する事で、常に確認が出来追加や、変更時にも職員が把握できるようにしている。	○	誤薬をふせぐ為に必ず複数の職員で確認しあっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起床時の飲水、牛乳、ヨーグルト、バナナの摂取や繊維の多い食品の摂取に心がけるほか、体操などを取り入れている。排便記録を行い排便困難時には早めに指示の緩下剤を服用して頂き便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがい、口腔ケアを行い、歯ぐきマッサージ、夜間は義歯消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて刻みやトロミをつけるなどの工夫と、好き嫌いも考慮してバランスを考えて提供している。摂取状況を記録に残し低下時には主治医への報告を行っている。	○	水分を取りたがらない方は、好きな飲み物で量を増やしたり、場所を変えたりすることで気分転換の工夫をしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザや肺炎等の予防接種に関しては家族の同意を得て行っている。食中毒等のノロウイルス対策には手洗い・うがいの励行・調理場に清潔に心がけている。又玄関や各棟に掲示し面会の方々にも協力をお願いしている。異常時には早めに主治医への連携を行い指示を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を毎日購入し、検食の冷凍保存を実施してる。調理器具及びふきん等の消毒を行い、調理時には十分な加熱処理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季の移ろいを感じさせる植栽と足湯で、近隣者も楽しめる空間を作っている。玄関先にはスロープ状の足場があり車椅子でも対応出来るようになっている。	○	玄関前の広場がある為、花見や紅葉狩り以外にもランチや軽食時の活用を計画していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ガラス戸を通して季節の光が差し、庭の季節の花が楽しめる。玄関やダイニングに花を飾り心地よく暮らせるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな席に座れるように椅子を揃えてあり自由に過ごせる。単品の椅子の配置もあり一人で気ままに過ごせるような空間もある。冬はコタツを置くなど家庭的な雰囲気作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒や椅子やテレビなどそれぞれに好みで設置している。また、家族がいつでも泊まれるように布団の準備をしている。	○	ご家族が泊まりにきて頂ける様に働きかける。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内温度は調整している。定期的に換気を行ったり、失禁などによる便臭、尿臭は速やかに換気し不快感を与えないように配慮している。個人差による温度調節は訴えを尊重してこまめに対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりをトイレ・浴室・壁際・廊下に設置し歩行の安全を計ると共に、できるだけ自立した生活ができるように配慮している。長い廊下で歩行練習を行っている。取り外しできるスロープがあり車椅子の移動の対応が出来る。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物の分別や、タンスの引き出しごとに整理して入れられるように靴下、タオル、下着など分りやすく掲示する。自分の部屋が分るように名前をつけるなどの工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで日向ぼっこをしたり、草取りや花植えなどを行っている。	○	ベランダでのおやつや昼食を楽しめる時間をもっと設けたい。



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりと穏やかで、安らぎのある日々を過ごして頂くように、支援します。又、一方的なお世話でなく、一人ひとりの個々の残存機能を活かし、出来る事はして頂き、自

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム といはた
(ユニット名)	あせび
所在地 (県・市町村名)	熊本県 阿蘇市 内牧117
記入者名 (管理者)	勝田 フク子
記入日	平成 19 年 12月 12日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	理念を三項目、職員で話し合いの上決め、各棟に掲示している	○ 会議の度に確認し理解を深める。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関ホール、施設内に理念を掲示し会議などで唱和して意識づけをしている。	○ 新入職員への教育を継続する。理念のもとに仕事が出来たか会議の時に意見を出し合う。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	運営推進会議を通じて家族、民生委員、近隣の方などにホームの活動、理念を理解していただけるよう取り組んでいる。又理念を見やすい場所に掲示し訪問者の方に理解していただけるよう取り組んでいる。	○ 家族会や行事のときなどに伝えていく事を続ける。運営推進会議でお願いする。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣近所の方々へのあいさつを続けたり、商店から買い物をしたり配達して頂いたり努力している。	○ 隣近所の人にホームに来て頂けるような催しを行う。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	行事や活動に参加し交流することに努めている。お祭り、清掃作業、文化祭など。また理容室や美容院なども利用している。	○ ホーム前の空き地を活用し交流の場となるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ゴミ拾いや草取りへの参加、文化祭や行事などへの参加をしている。	○	奉仕作業への取り組みをする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を全体会議で話し合い改善すべき点は努めて改善している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	11/13 1回目を開催し、委員の方々との話し合いをサービス向上へ活かしていく方針である。	○	2ヶ月毎の会議を有意義なものとしサービス向上へつなげていく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連絡会やグループホームブロック会との意見交換を通じてサービスの質の向上に心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要とする方が現在はいないが勉強はしていく。社協の役の方に必要な時は協力して頂く。	○	必要に応じて勉強していく。いつでもサポートできる体制をとっておく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで学ぶ機会を作っている。職員同士の声かけで防止に努める。外部の勉強会へ出席してホームでの会議で発表を行っている。	○	ヒヤリハットの活用や異常の早期発見で虐待行為の防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、家族会、等で書類、口頭で説明理解していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話を傾聴し、面会時ご家族等からの意見も伺い運営に反映している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回の便りで近況報告し、個々の変化時には、その都度電話連絡している。	○ 定期的に新聞の作成をする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず家族の方々声を聞くように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例会議を設けて意見交換をしている。	○ 会議などで職員が意見を出しやすいようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	希望休を優先し、話し合いながら調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じた移動等、話し合いながら行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者と一部の職員は研修等に出席している。	○ 職員全員が向上心をもつように取り組んでいく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会などに参加してネットワーク作りに努めている。	○ 職員全員が交流できる機会をつくる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望休の実施、食事会の援助、心配事の相談など。	○ 連休をとれるようなシフト組みを検討。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定例会で医療、介護の連携、その時の問題点を話し合う。役決めをし、その責任を果たすように協力する。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくり、じっくり傾聴している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本当に困っている事を話せるような態度で傾聴し、家族の「思い」を受け止め解決する努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居まで時間がかかる時等は、現在の状況について相談に応じている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでの生活を理解し、馴染めるように努力、工夫をしている。入居前に訪問して頂き馴れていただく。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事、おやつ作りやせんたく物整理など、本人の出来る事をして頂く中で、同じ時間を過ごし支え合う関係を築く。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を面会時や手紙できちんと伝え、安心されるようなより良い関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に家族の方の協力を得ながら、より良い関係を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、写真などで思い出して頂くように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が気配りをし、協力できる作業や話し易いように席を配慮する等関わり合いを支援している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とする方が今のところないが入院されたときなどお見舞いに伺っている。	○	必要時にはすぐ関わりが持てるように体制を作っておく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にもあげており、希望に近い支援が出来るように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込み時に生活暦を十分確認し、把握するようにしている。介護支援専門員・ケアワーカーさんなどにも生活情報を伺っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員で関わり、変化に早めに気づき総合的に支援できるように努めている。有する力については職員が把握し同じ対応を取るように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の面会時や電話連絡時に希望や意見を伺い、モニタリングをきちんとする事で、プランの作成につなげている。	○	プラン作成の勉強会を充実させていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要な時は作成している。	○	担当者がモニタリングを行い、プランを活かせるように継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項、申し送り事項を活用し、活かしている。	○	個人差が出ないように共有していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制で早期治療、悪化の防止などが出来る。また家族の状況により通院の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園児や小中学生の訪問があり交流してもらっている。	○	運営推進会議を活用し意見を活かしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運動会に招待され入居者、スタッフが参加している。理容室、美容院などにも行っている。また訪問美容があり喜んでいただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員に参加していただき情報の交換をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に相談して決めている。専門的治療に関しては主治医の紹介状で適切な医療を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉かけで対応している。乱暴な方言がでる職員には注意をうながす。記録は他者の氏名はイニシャルを用いている。	○ 家族のように親しみをこめたつもりとはいえ、人生の先輩なので十分注意をして、適切な言葉かけを行うように配慮する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思や行動の目的を把握し、適切な声かけやリクレーションを促している。着替えの際、本人の意向を汲み好みにあわせて、歩行練習の運動量や時間を本人と話して決めている。	○ 家族の面会時に本人の希望を聞くように努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活で最低必要なことは大まかに決めて行っているが、体調、思い、希望に沿って支援している。	○ 昼夜逆転など生活のパターンがくずれないように注意する。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	以前から利用している美容室に行く。美容室からの訪問もありカットしている。1ヶ月～1ヶ月半を目安に計画し、本人の体調や希望にあわせている。化粧品の購入も手伝っている。	○ 女性は特におしゃれに敏感なので、その意志を尊重し、服のコーディネートにも気配りする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように心掛けている。好きなもの嫌いなものを周知し、摂取量や様子を記帳し対策検討に努めている。本人の能力にあわせては配膳や片づけ、野菜の皮剥き、おやつ作りをしている。誕生会は希望を取り入れた献立にしている。	○ 食事は楽しみにしていることのひとつなので、食事に関わるリクレーションを多くしていきたい。好、不評メニューを検討し、今後の献立作りに役立てていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームでの喫煙は禁止している。お酒は家族会などの行事のときに検討し出している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、コントロールが困難な方は時間ごとに誘導し失禁を防ぐようにしている。下着又はオムツ内が清潔に保たれるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日をきめて温泉大浴場で行っている。その日以外で希望、必要があればユニットバスを利用している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冬は暖房や湯たんぽ、電気毛布、夏は冷房や窓を開け風を通すなど、その人に合わせて対応し安眠を確保している。	○	室内温度の確認を怠らぬよう、又、電気毛布の温度調整を行い安全にも配慮しながら実施する。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の体操、家事のお手伝い、おやつ作り、清掃活動などその時々で能力に応じて楽しんでできる役割をして頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する買い物は可能な方は職員が同行している。所持金管理の出来る方は所持しているが、基本的にはご家族を通して管理している。領収書と明細を月に1回家族に報告している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、受診や美容院などそれぞれに外出して気分転換を計っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々の風景を楽しむ為のドライブを兼ねて、神社参拝や名物店に立ち寄り、お饅頭やだんご等を食べる。演劇や音楽会など外出の機会を設けている。	○	早めに計画をし、より多くの家族の参加をお願いします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて職員が電話の取次ぎをし、コードレス電話で対応している。近況は写真を同封するなど月に一度は手紙を送って知らせている。	○	家族から電話をして頂いたり、手紙のやり取りができるように働きかける。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族会や誕生会への出席を事前に呼びかけている。普段の訪問の際はお茶やお菓子でもてなし、居室だけでなく、ダイニングやリビングでゆっくり歓談し、楽しんで頂ける様配慮している。	○	具体的な計画を早めに立案し、参加呼びかけを早める事で家族の参加を増やしたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動や排泄パターンを把握し、誘導、声かけ、見守り等で身体拘束をしないケアを行っている。研修会へ参加し、勉強会を行い周知している。	○	新入職員に周知していく。全員が研修会などに参加して意識を高める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない取り組みは行っているが、事故に繋がりがかねない事例があるため鍵の必要性がある。	○	施錠の必要がなくなるよう取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が持ち場を離れる時は他の職員に頼むなど、見守りが必ずつくようにしている。夜間は定期的に巡視して異常に早く気付くようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	使用時は職員の見守りで刃物、工具を使い、作業以外は事務所や台所で職員が保管管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒予防の体操、歩行練習、必要に応じてお粥、トロミ対応、誤薬を防ぐため複数の職員で確認し、服用の際は見守り確認している。防火管理者を決め火災訓練を行っている。	○	防災訓練で全職員の意識を高める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的にはすぐに主治医へ連絡する。	○	学びたいことを勉強会を通して職員全員が把握するようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が防災計画を作り、訓練を実施するようにしている。運営推進委員会で地域の方に協力をお願いした。	○	消防訓練の際近隣の方々にも参加して頂けるように連絡する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や面会時、電話などで報告し対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲や顔色、様子を観察し異常の早期発見に努めている。異常時は主治医に連絡、指示を受けている。又状況を家族に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を理解、確認が出来るように薬局の薬の説明書をケース記録帳に綴じている。薬の変更、追加時は誤薬を防ぐため複数の職員で確認し服用してもらっている。	○	全職員が周知するように引き続き実施。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起床時の飲水、牛乳、ヨーグルト、バナナの摂取や繊維の多い食品の摂取に心がけるほか、日課として朝の体操などを取り入れている。排尿チェック表を活用して排泄パターンを承知している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがい、口腔ケアを行い、歯ぐきマッサージ、夜間は義歯消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて刻みやトロミをつけるなどの工夫と、好き嫌いも考慮してバランスを考えて提供している。摂取量を毎日記録している。また月に2回体重測定を行っている。	○	水分を取りたがらない方は、好きな飲み物で量を増やす。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者、ご家族に同意を頂き職員共にインフルエンザの予防接種をしている。手洗い、うがいの励行などを心掛けている。異常の早期発見に努め異常時は速やかに主治医に相談している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を毎日購入し、検食の冷凍保存を実施。調理器具の毎日の消毒、食器は乾燥機に入れるなど管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季の移ろいを感じさせる植栽と足湯で、近隣者も楽しめる空間を作っている。	○	紅葉や花見など以外にもおやつを食べたり、毎日の生活のなかで玄関周りを利用したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はガラス戸を通して季節の光が差し、庭の季節の花が楽しめる。玄関や居間、食堂に花を飾り心地よく暮らせるように工夫している。浴室からは中庭の木々がガラス越しに楽しめる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな席に座れるように椅子を揃えてあり自由に過ごせる。冬はコタツを置くなど家庭的な雰囲気作りをしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただき使い慣れた箆笥や椅子やテレビなどそれぞれに好みに設置している。また、家族がいつでも泊まれるように布団の準備をしている。	○	ご家族が泊まりにきて頂ける様に働きかける。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個室の室内温度は個人差があるので個人の訴えを尊重しこまめに調整している。定期的に換気を行ったり、失禁などによる便臭、尿臭は速やかに換気し不快感を与えないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりを廊下、トイレ、浴室に設置し歩行の安全を計ると共に、できるだけ自立した生活ができるように配慮している。長い廊下を利用して歩行練習を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物の分別や、タンスの引き出しごとに整理して入れられるように靴下、タオル、下着など分りやすく掲示する。自分の部屋が分るように名前をつけるなどの工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで日向ぼっこをしたり、草取りや花植えなどを行っている。前庭には足湯があり観光客、小学生に立ち寄ってもらっている。入居者の方も紅葉狩りをしたりお茶を飲んだりして楽しんでいます。	○	ベランダでのおやつや昼食を楽しめる時間をもっと設けたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりと穏やかで、安らぎのある日々を過ごして頂くように、支援します。又、一方的なお世話でなく、一人ひとりの個々の残存機能を活かし、出来る事はして頂き、自